

JSSX-APDD 合同ワークショップ

-今後の医薬品開発促進への薬物動態学の貢献（第九回）:

基礎から臨床、セルフメディケーションまでを分子で繋ぐ-

開催にあたって

モデレーター 佐々木 晃、中井 大介

近年、医薬品の分子モダリティの多様化による分析手法の拡大やプレシジョンメディシンを志向した創薬に伴うバイオマーカー測定等、薬物動態研究における分析の重要性がますます増えています。そこで今回のワークショップでは「分析」に焦点をあてて、テーマとして『基礎から臨床、セルフメディケーションまでを分子で繋ぐ』を掲げ、第一部では「動態研究における分析技術」、第二部では「ヒト試料を用いたバイオマーカー分析の実践と発展」と二つのセッションを設け基礎から臨床までの分析に関する最新の動向を紹介します。

第一部では基礎研究における三つのイメージング技術を取り上げました。創薬研究のがんや希少疾患へのシフト、モダリティの多様化に伴い、従来の血漿・組織中化合物濃度だけではPK/PDが説明できない事例が生じ、局所動態や機能変化を精度高く検出・可視化する分析技術を駆使して、医薬品候補化合物を開発していくことが求められています。これらの薬物動態研究者が直面する課題に対する解決方法としてイメージング技術の最新の知見を紹介いただく予定です。

第二部では、「分析」の中でも臨床試験やセルフメディケーションの場に焦点を当てて三演題を取り上げました。ヒト生体試料を用いたバイオマーカー分析そのものに留まらず、バイオマーカー分析において重要な役割を果たす治験で取得した生体試料管理、バイオマーカー分析データを用いたセルフメディケーションの内容で、プレシジョンメディシンにつながる幅広い観点から話題を提供いただく予定です。

本ワークショップの最後に総合討論を行います。ご参加頂きます皆様には是非とも活発な議論をお願い申し上げます。

[略歴] 佐々木 晃



田辺三菱製薬株式会社 創薬本部 薬物動態研究所
平成 9 年 東北大学大学院修士課程修了、同年 三菱化学株式会社（現田辺三菱製薬株式会社）入社、平成 21 年博士（医学）取得、一貫して薬物動態研究に従事。

[略歴] 中井 大介



第一三共株式会社 研究開発本部 薬物動態研究所
平成 7 年 東京大学大学院修士課程修了、同年 三共株式会社（現第一三共株式会社）入社、平成 17 年博士（医学）取得、薬物動態研究、臨床バイオマーカー測定および臨床生体試料管理業務に従事。